

受講生の声!!! H27 年度受講生から

「あらゆる医療者にQM養成講座をお勧めします」



東京医科歯科大学医学部附属病院
救命救急センター・医療安全管理部
村田希吉（医師）

救命救急センターの中堅医師として、また病院の医療安全管理部の職員として1年間、非常に楽しく受講させていただきました。QMCと講師の皆様がこの場を借りて感謝申し上げます。

年間を通して最も勉強になったのはDPCデータを用いた医療の質管理です。臨床指標を用いた病院の質管理と安全管理、またそれに実際に取り組んでいる国立病院機構での実習など、これまでの自分の日常では決して知ることのなかった世界に触れることは、とても有意義でした。講師の先生との距離も近く、また受講生の職種も多種多様であり、それぞれの立場からみた医療の質改善の考え方について意見交換できたことも大きな財産となりました。

自分の働く救急医療の現場は救命救急が最優先であり、いかに助けるか。いかに社会復帰を目指すか。これまではその点にのみ全力を注いで仕事をしていました。しかしその救急医療にも、医療の質改善、安全な医療という目線が必要であることに改めて気がつくことができました。今後は救急医療の質改善を提案できるような臨床指標の開発、より安全な救急医療を提供できるような取り組みを自分のもうひとつのライフワークにしていきたいと考えています。また、そのような活動を通して、救急医療の質管理の重要性を救急にたずさわる若い医師にも伝えていきたいと考えています。

本講座はあらゆる医療者にお勧めできます。医療の質改善は決して医療者の自己満足ではなく、国民の願いです。わたしは救急医療を生業としていますが、さまざまな医療の領域で医療の質改善という目線を備えた医療者が増えていくことは、日本の医療の質改善に向けた確かな一歩になると思います。多くの本講座卒業生と、様々な場で意見交換ができる日を楽しみにしています。

「医療の質改善 PDCA 手法の実践的学びから病院組織マネジメントへの参画が意欲的に！」



東京医科歯科大学医学部附属病院 集中治療部
高橋 洋子（看護師）

昨年度は医療安全管理部に属しゼネラルリスクマネージャーとして安全管理の実務を行いながら本講座を受講させていただきました。本講座では「医療の質評価におけるデータ分析手法」「医療の質改善と安全確保のためのPDCA実習」「医療政策管理学」等を主に学びましたが、特に「臨床指標分析」と「PDCAサイクルを効果的に回して医療の質改善に向けた課題分析、臨床現場との共有、改善計画、評価を行う演習」については、大変興味深くとても勉強になりました。実効的に機能させるためには自己の分析・マネジメント能力にまだまだ課題もあり難しい部分も多いですが、使命感や遣り甲斐も見いだせました。また、本講座の良さは他施設見学や豊かな管理分野の講師、さまざまな領域の医師・管理職・医療従事者の受講生によるディスカッションにより学べることだと思います。

今年度より集中治療部に異動となり、中央診療部門として各診療科、多職種のスタッフと連携し、質改善と安全確保を目指した集約ケアを実践するにあたっては、本講座で学んだPDCAサイクル手法を丁寧に実践し、病院組織マネジメントにも繋がる組織間連携の取り組みを意欲的に行っていきたいと思っています。本講座により以上の学びを得たことは、今後の自身にとっても貴重な財産となりました。このような機会を与え丁寧に指導いただいた先生方に変え感謝しております。

「PDCA 医療クオリティマネージャー養成プログラムを受講して」

東京医科歯科大学医学部附属病院 手術部・医療安全管理部

田中直文（医師）



昨今、医療安全管理体制の強化に加え、病院運営全体におけるガバナンス体制の整備の必要性が叫ばれています。これらは立て続けに起きた大きな医療事故も拍車となっていますが、高品質の医療を常に提供し続け、かつ、財務的にもバランスのとれた病院の運営を行うためには必須のことであり、大学病院に限らず、全ての医療機関に共通した課題といえます。

PDCA 医療クオリティマネージャー養成プログラムは、「高度急性期病院における医療の質と安全の評価と確保及び病院機能の高度化に相応した病院組織マネジメントを担う人材の養成を目指す」という、

言わば“いいとこ取り”のような目標ですが、実際の受講してみると、極めてシステマチックな運営がなされています。

まず、主な授業内容としてDPCデータを用いた質の評価、新しい質評価基準の策定、PDCA サイクル運用の実際、など分野は多岐に渡っています。ほぼ全項目、講義・演習・生徒によるプレゼンの形式で、臨床指標に対する取り組み方を習得することができます。

次に、後半に、PDCA サイクルを実践し良好な結果を出している施設へ施設見学を行っており、それまでに習得した知識をもとに地域医療施設の改善取り組みの実際や難しさを学ぶことができます。

さらに、これら、現場に近い視点からのアプローチに加え、病院運営や医療政策を俯瞰的に考察するために、修士課程 医歯理工学専攻医療管理政策学(MMA)コースの受講も組み込まれています。MMA コースとは病院管理者や医療政策領域の研究・教育者を養成するコースで、PDCA プログラム用に選ばれた必須科目を受講できます。本プログラムはこれらのステップを習得することにより、戦略的かつ戦略的な思考の人材を養成するというものであります。

講義は濃厚で、気合を入れて取り掛からなければなりませんが、親身の指導と面倒見の良さもあって、50 歳代でも修了することができました。自分の業務の大半は手術室のマネジメントであり、ブラックボックスといわれる手術室をいかに可視化するかに腐心してきました。プログラム受講後、手術室のみから質や安全性を推し量ることは難しいのではないかと気づき、周術期や、手術に至るプロセスまでを範疇にした、質の改善、指標の策定を検討したいと考えています。

本プログラムは医師のみが対象ではありません、医師、医療職、医療機関職員と、幅広い職種を対象としています。医療の改善に向けて意欲がある方は是非エントリーしてみてください。

初心者からの PDCA

東京医科歯科大学医学部附属病院 薬剤部・感染制御部

相曽啓史（薬剤師）



本講座を受講する前は、「医療の質を評価し向上を目指す！」と一言と言っても、日常業務の中から具体的にどうすればよいのか想像が付きませんでした。

現在の医療現場では情報化が進み、DPC データなどの様々な医療データが存在しています。本講座を受講することで、医療データの分析が可能となり、臨床指標を作成、評価する経験ができました。

特に、本講義では多職種の受講生がいるため、様々な視点で意見交換ができたことは、医療の質を評価するにあたり、必要な要素であると感じました。

現在、私は薬剤師として、また、感染制御部の職員として業務を行っています。本講義で学び得たデータ分析を利用し、感染制御に関する PDCA サイクルを実践しています。始めたばかりですので、まだ計画(Plan)、実行(Do)の段階です。今後は、評価(Check)、改善(Act)に繋がっていきたいと思います。

本講座より、多くのことを学ぶさせていただきました。講師の皆様、受講生の皆様、とても良い経験になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。